

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700649		
法人名	株式会社想健		
事業所名	グループホームいにしえ(2階ひだまり)		
所在地	福島県須賀川市下宿町83番地		
自己評価作成日	令和2年 1 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和2年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様それぞれの力に合わせて準備して役割を持ち、「出来る事」「出来たこと」で本人の自信とやる気が持てるよう、ご本人の「出来る」を奪わないようご支援させて頂いている。フリーの日を設けて担当者利用者様が外出されて、「ラーメンやパン」が食べたいとの希望で一緒に外食したり、季節や行事食(正月・節分・ひな祭り・彼岸・節句・・・等々)を大事にして、普段柔らかい物の利用者様が皆と同じくおはぎやお赤飯など喜んで召し上がられるよう工夫している。また週に一度利用者様の希望食(昼食)も提供されている。普段の食事も栄養バランスを考慮して毎日10品目を必ず摂取できるよう献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロッカーのある事務所出入り口頭上に、理念が掲げてあり、常に意識できるように、なっていて、理念をいつも心にとめ、利用者様のお気持ちに寄り添い、安全・安心・安楽に生活して頂けるように支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のゴミステーションが敷地内にあり、近隣の方にお会いした時は積極的にご挨拶させて頂いている。 町内の育成会主催の廃品回収には資源をストックして積極的に協力させていただいている。 敬老会には、近隣の児童館の子供達との交流は利用者様が感激されて泣いたり・笑ったりされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っていて、介護の実践・実態を経験して頂いて、認知症介護現場で働くうえでの疑問・質問にお答えできるようにしている。実習後、いにしえに勤務している、スタッフもいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進委員会の議事内容や意見・アドバイスを伺い、即改善出来る事には、対応させて頂き、更に改善に向けて取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括のケアマネと市職員に、運営推進委員会に参加して頂き、ホームの現状(ヒヤリはつと・事故報告書含む)、状態を報告し相談・アドバイスをうけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関・出入り口の施錠せず踊り場へは、いつでも自由に入出入りできる状態になっていて、車いす・ベッド等では、転落の危険もあるため、センサーや音が鳴る物をお渡しして、見守り強化して対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部の虐待防止の研修会にスタッフが参加したり、参加時の資料を基に、事業所内で、伝達講習や・独自資料での勉強会も有り、研修させて頂いて、利用者様の身体観測を行い、それが虐待によるものなのか皮膚疾患かどうかをヒヤリや日報に記入し全員で把握し確認させて頂いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度についての勉強会は、ここ1、2年行っていないので次年度からは取り入れていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書、重要事項を契約時に説明し、同意を頂いている。緊急時・看取りに関しては、ご家族様の意向も変化するため、その都度確認させて頂いている。改正がある時は、現状を説明し理解や納得が得られるよう資料を作成し家族会総会にて話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会総会で意見を伺ったり、玄関先に意見箱を設け忌憚のない意見を述べられるようにしている。また重要事項説明時に苦情相談をいつでも市や県でも受け付けていることを説明している。面会時には、現状を報告したり、要望などの問いかけをして伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の経営会議資料はコピーして各ユニットの申し送り簿に挟んで経営状況を把握してもらっている。常時、意見を言いやすい環境(特にコミュニケーション)作りに努めている。またユニット会議にて、意見や疑問、提案があった時には、上司と相談しすぐに対応するようにして・ユニット会議時に直接説明していただく事もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個人評価を行い、個々の努力や実績を把握して賞与等で反映、他、3月の決算月にも賞与がある。会議はもちろん、勉強会や行事等でも時間外手当を出している。月4～5回の希望休があり、休みたい日は休めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会や、外部研修は個人の経験や力量によって可能な限り参加できるようにしている。参加できない時は、資料を配布している。適時気づいた時や、訴えがあった時には、技術や知識を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、他グループホームとの交換研修や地区の研修委員が来て研修を行ってくれたり、その他の研修等を通して交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に本人や家族・ケアマネ、スタッフ等から話を伺えるよう環境を整え、カンファレンスを行い情報把握に努めている。入所後は言動を重視、本人の話を聞き何を望み、何が不安なのかを汲み取ったり、他者との関係性を見極め安心してお過ごしいただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時、家族からの話に耳を傾け、家族として、今困っていることや入所後はどのような生活を望んでおられるのかなど伺い、何でも言いやすい雰囲気作りをしながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査を基にスタッフ全員で予測されるリスクカンファレンスを行い、必要とされる支援を見極め、スタッフ統一したサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き・お膳拭き・タオルたたみ等一人一人が出来る事を一緒に行っている。役割を持ちお互いに助け合える環境を作るように努力し「いつもありがとうございます」という感謝の言葉を丁寧に伝え快く行って頂けるよう支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室でゆっくり談話出来るようにしたり、現状の報告や相談をし家族の意向を聞くようにしている。行事・草むしりでは多くの家族が参加して頂けるようになり、行事ではご家族様がボランティアでハーモニカの演奏(伴奏)をして下さることも有り協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年のかかり付け医は、出来るだけ継続して受診出来るようにしている。孫、ひ孫の面会や、ご家族様となじみの美容室へ行き長年の習慣の色に毛染めして来られる利用者様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや役割を通して、一人一人が出来ることを分担して行って頂き、利用者様同士がおしゃべりを楽しんでいる時は必要以上にかかわらず、お疲れの様子がある時は仲介したり臨機応変に関わらせて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所の方が多いが、今年度は、家へ帰られた方が一人いて、デイサービスを利用しながら生活を続けられている方がおります。本人は何でこんなに親しそうに声かけるのだろうかという不安な様子が見られ、声かけを遠慮させていただいている。ご家族様とお会いした時には家での様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、カンファレンスを行い日頃の行動や発言から本人の意向を把握して本意に近づけるよう努力している。それぞれに時代劇がお好きな方には、DVDを用意したり、好きな俳優さんの出ている番組を探して見られるようチャンネルを合わせて観て頂いている。食事の好き嫌いによってはお聞きして別メニューを用意させて頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人からお聞きしたり、入所後も会話の中から把握しアセスメントシートを作成して全スタッフで把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中からの気づきや本人の言動等、日報に記入して情報を共有し、カンファレンス等で話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時に意見・要望を伺ったり、本人の日々の言動を記録して把握し、看護師や医師の指示も含めてサービス担当者会議を開いてモニタリング(介護チェック表)を行い、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画がどのように実践されたか、ケース記録して、その他・言動・行動も記録してモニタリング表にチェックし、変化があれば気づきの欄に記入して、毎月のカンファレンスで課題をあげ、それに対する改善策を実践したり、ケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の他、その時々体調の変化に必要な皮膚科や眼科、訪問歯科を取り入れ家族に報告して臨機応変に受診している。フリーの日を設けて、担当者や利用者が本人の意向を聞き「ラーメン食いで」との希望で食べに行ったり、「パンが食べたい」とハンバーガー屋さんや買い物へ出かけたりすることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館の子供達を敬老会に招いての交流や、夏祭り・クリスマス会にはボランティアをお願いして場を盛り上げて頂いたり、市の登録ボランティアに見守り支援をして頂いたりしている。ご家族様がボランティアとしてハーモニカ演奏を披露して下さることもある。近くのコンビニへ買い物へ出かけることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認し希望を優先している。家族が通院同行の希望があれば家族が、家族が行けない場合は管理者が通院同行している。また、支払いや薬取りを希望されている家族もいらつやる。病院を退院してそのまま入所される方は、ホームDrの往診や通院に変更する方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問看護時に、日頃の状態や不安なこと、体調の変化などを報告している。看護師は変化を主治医に報告して指示を仰ぎ連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の基本情報を提供している。ユニットリーダーや管理者が見舞いに行き状態把握と看護師から現状を聞いたり退院の見通しを伺っている。また、病院で必要なものを準備して届けたり家族と密に連携を図りながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について説明し家族の希望を伺っているが、その時の状況によって希望は変化するので、状態変化時には、改めて主治医、家族、管理者で今後の治療方針や看取りについての話し合いを設け訪問看護や全スタッフへ伝え、医療、家族、介護で連携を密にして取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して連絡体制を整え、何かあれば24時間対応の訪問看護に連絡して指示を受け対応できるようにしている 訪問看護の看取りについての研修を行ったり、AED心肺蘇生の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	夜間想定 of 火事や地震等の自主避難訓練を行っている。災害時には、事務長より得られるようになっている。スタッフ・家族・地域住民(登録者)に一斉メールが配信され協力を得られるようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、本人の発言や行動を否定しないようにスタッフ全員に周知徹底を図り、排泄で失敗された時は静かな声かけで、本人が委縮しないような対応をするように申し合わせ、排泄や申し送り時には十分な配慮するよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時、本人が選択できるような声かけや、言いやすい問いかけに心がけている。週1回の希望食では本人の希望を伺い、レクや役割でも無理強いくことなく、自ら行われるよう準備や段取りをしながら働きかけ自信に繋げ決定しやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て利用者様のペースで行う事は困難であるが、意思を表出出来ない方へは、言動や状態を観察しスタッフ都合のケアやペースにならないように意識している。スタッフはレク等の声かけはするが、やりたくない人は居室でテレビを見たり、踊り場で日向ぼっこをしたり、自分のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で自分で選んばれている。外出や行事などでは外出用に着替えたり、寝ぐせ直しや下着が出ていればさりげなく介助し身だしなみに気を配っている。髪の色も、長年の美容室へ家族と出かけ好みの色に染めたり、本人・家族の意向を聞いて訪問理美容にて染めたり、スタッフが対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の準備は、包丁仕事や米つき、盛り付け等一緒に行ったり、片付けもそれぞれ分担して行っている。メニューで嫌いな物がある時は、都度お聴きして別メニューを提供させて頂いている。毎週水曜日は、利用者様の希望食の日で、交替で好きな物をメニューに召し上がって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか摂れない利用者様には種類を変えたり、トロミを使用し制限がない限り1000ml以上を目標に工夫提供しチェックをしている。食事は状態によって、お粥やミキサー、刻み、カットして提供していて、毎日、栄養バランスを整えるため10品目必ず摂取できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、義歯洗浄、歯磨きなど一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。夕食後は義歯洗浄剤で消毒している。必要に応じて歯科受診されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時ハビリパンツ使用だった利用者2名布パンツ使用となった。夜間はオムツでも日中はハパンを使用し定期的に誘導し排泄を促している。他言動を注視し声かけや誘導し後始末をさせて頂いたり、ご自分で始末されるよう声かけやペーパー手渡ししたり、自分で始末される方と一人ひとりに合わせた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操をして体を動かしたり、腹圧運動やお腹をさする、ウォシュレットで刺激を与えたりしている。毎朝牛乳を飲んで頂いたり、必要に応じ主治医より下剤処方されている方もいらっしゃる。便秘に関する勉強会も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	訴えがあった時は、他者の状態を考慮しながら、極力意に添うようにしている。季節に合わせた入浴剤も使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整(中には加湿器使用)をして快適な状態で休めるようにしている。眠れなくて何度も起きてくる方もおられるが、寝るように強要はせず、本人に任せている。眠れなかった時は、翌日、ベッドで休んで頂いたり、昼寝の声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診記録と薬の説明書を1冊のファイルにしていつでも確認できるようにして、スタッフは全員目を通して把握している。内服は、一人ひとりに見合った方法で介助し飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や嗜好品はスタッフはアセスメントにて周知しており、レクや役割を通して活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候をみながら、周辺散歩や季節に応じた外出や買い物に出かけている。スタッフと1対1での買い物やコンビニでの買い物にも出掛けている。家族様やご友人と外食や美容院へ外出される方もいらっしゃる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少額の金銭を管理されている方が2名いらっしゃるやコンビニで買い物をされる事もある。ホームの金庫で小遣いとして預かり、ほしいものがある時は家族了解のもといつでも購入できるようにして、都度、金銭出納帳につけて月末に縮めコピーと領収書を家族へ郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があればいつでも対応するが、現在は毎週水曜日家族の了承を得て電話でお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング続きで台所があり、音や匂いを感じ、季節は庭の花木や作品等で感じられるようにしている。温度・湿度は計器(居室にも)があり適時の確認や床暖とガスストーブもあるので適時調整を行い居心地良い環境作り心がけている。迷いや混乱が生じないよう大きな文字で案内をしたりプライバシーを守りながら安全確認が出来るよう隠し窓を設け覗けるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりに座って会話されたり、踊り場で(午前中)日向ぼっこや気の合う利用者様同士でソファに座っておしゃべりしたり、一人で外を眺めておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。小物や自分で使っていた布団など自宅で使っていたものを持ってきたり、大切な仏壇や位牌、家族や思い出の写真をお持ちいただき飾っている方もおります。テレビもご自分のを置いてみて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱してしまう方には表札をつけたり、トイレにはトイレと表記して迷ったり混乱しないようにしている。又、トイレドアに覗き窓を設け、プライバシーを保ちつつ安全に行われるか確認するために覗き窓を設けている。		